

平成25年9月21日

大阪市北区長 中川暢三 殿

大阪市北区中之島六丁目1番54号
大阪市北区中之島連合振興町会
会 長 依 田 均

中之島活性化プログラムの提案

中之島四丁目の賑わい創出

核となる科学館・国立近代美術館そして建設予定の市立美術館は、規模が非常に大きく内部に訪れる者へサービスを行う施設も完備されている。

しかし、各施設間そして施設と交通機関を結ぶ導線上には、訪れる者を楽しませる施設がない。従って、核となる施設を訪れる者や後にする者は、中之島四丁目に滞留することはない。

四丁目を訪れる者の滞留時間を伸ばし、中之島の緑と爽やかな風を楽しむ触媒として、「大道芸人による路上演芸」を許可することを提案します。既に、週2から3日程度1組の演者によって行われていますが、近隣住民にも告知が行き届いていない状況であり、（休館日を除く）全ての日に複数の演者が集うことにより、知名度と集客率が向上するものと考えます。

公有地における「大道芸人による路上演芸」の基準は、市・区により作成して頂いていますが、運営は、「地域活動協議会」に移管することにより、歳出の削減並びに税収の拡大、地域住民の参加による住民自治の意識改革など、多方面にプラス効果を与えると考えます。

川を楽しむ・川に親しむ

古来より、人は川を利用し、人は川で遊び、人は川から恵を得、また、川に翻弄されていた。川を怖がるようになり、防潮堤の建設によって人と川を分断し僅かな安心と引き換えに、人は川を利用し、人は川で遊び、人は川から恵を忘れてしまった。

それを払拭する為、水都の名に見合う、誰でもが参加できる川遊びを企画する必要がある。

三丁目・四丁目・五丁目の堂島川左岸で、「中之島釣り大会」を行う事を提案致します。

大阪有数のビジネス街を背に、オフィスワーカーに混じり釣り人が点在する景色は、ハードな都市に潤いを与えるシーンを展開することでしょう。

府西大阪治水事務所へのヒアリングでは、堂島川で釣りをする規制はないとのこと。また、中之島には釣り糸のメーカー（東レ）や釣竿のメーカー（ダイコー※）があり、地元中心で行政負担が少なく開催できるのでは、と考えます。

※ 大丸百貨店子会社 大丸興業の子会社

本家中之島宣言

全国の「中之島」に使節団を派遣し、また、OSAKAの「中之島」への来訪を促し、交流を結び、「全国中之島サミット」等のイベントをOSAKA「中之島」で開催する。各地の「中之島」の特産品が、OSAKAの「中之島」に集合し、直販されることにより、全国の「中之島」の知名度向上を図る。特に、各地の『食』に関する特産品は、「『食』のまちOSAKA」のイメージと合致し、全ての「中之島」のブランドイメージを高める相乗効果があると考えます。

OSAKAの再生のためにも、地域住民と企業そして地方自治体とが、全国の「中之島」と連携をとり、「中之島」の名称をブランド化する必要があると考えます。

前文は「本家中之島宣言」（資料1）の写しですが、具体的には、まず「**隠岐島海士町中之島**」との交流を行う事を目指します。

隠岐郡海士町長 山内道雄氏（資料2）は、Iターン・地域産業の再生・町役場の改革等で先進的な取組をなさった人で、ご協力が得られるのではと考えております。また、国土交通省「**ニ地域居住の推進**」（資料3）「**広域的地域間共助推進事業**」（資料4）の2つの事業にも合致する事業と考えております。

そして、「**広域的地域間共助推進事業**」は、貴殿のご協力なくしては行えない事業ですが、ご協力頂きますと、国土交通省予算から500万円程度の補助があり、北区の財政負担なく行う事ができる事業と考えております。

西の剣先・中央市場本場地域の大阪市民への認知と集客

西の剣先は、川口地区にあり、古くは大阪の西の端であり、外国船を迎える大阪の玄

関であった。多くの人が入り出る税関がなくなり、物資を引き受けていた倉庫群は、かつてのように多くの人を必要とすることがなくなってきた。また、財産や、商品を守るため高い塀で敷地を囲い、人々が回遊することを拒み、人々もその地域を訪れる目的を失ってしまった。

西の剣先にレーザー照明設備を内蔵した真っ赤な大きなボールを設置する。

田蓑橋・玉江橋・堂島大橋からみる大阪湾に沈む夕陽の美しさを表現する赤いボールは、天候に左右されずその務めを果たします。

また、内部にレーザー照明設備を置き、日没から数時間、内部からカラフルで、不作為に変化する灯りを燈します。

そして、大多数の若者が持つスマートフォンに同調し、見物に来る者のそれと赤いボールとが同じ光を放ち、人々とボールが一体化する。

あるときは、レーザーにより名前をボールに映し出し、恋人達のプロポーズのお手伝いをする。

若者が集まり、滞留することにより、屋台やカフェの店舗の誘致を可能とし、少し時間を掛け周辺環境を変えていくという手順で行えば、先行する投下資本の通減を図れると考えます。

四丁目大阪市立美術館用地の暫定利用

中之島四丁目地域には、広大な未利用地があり、電信柱や伝染が非常に少ない。それを利用し、忘れられようとしている「凧揚げ」「鯉のぼり」「七夕」「竹とんぼ」をテーマとした。昔懐かしい遊びを子供達に伝えていく。

高齢者の頭の片隅に数十年前の楽しかった子供の頃を思い出させ、子供や幼児に教えることにより、高齢者と乳幼児・子供と接点を見出し、自らの存在価値を高め、老後の新しい目標を与える事業になると考える。